

# 有害事象

## 出血

ロミプロスチム群：標準治療群

52% vs 53%

## 血栓症

ロミプロスチム群：標準治療群

4% vs 3%

## 造血器腫瘍

ロミプロスチム群：標準治療群

0例 vs 2例

Table 3. Selected Adverse Events Occurring during the Treatment Period.\*

Event†	Romiplostim (N=154)			Standard of Care (N=75)		
	no. of patients (%)	no. of events	rate (95% CI)	no. of patients (%)	no. of events	rate (95% CI)
Bleeding events	80 (52)	260	3.56 (3.14–4.03)	40 (53)	153	5.02 (4.25–5.88)
Grade ≥2	20 (13)	34	0.47 (0.32–0.65)	13 (17)	21	0.69 (0.43–1.05)
Grade ≥3	5 (3)	8	0.11 (0.05–0.22)	5 (7)	10	0.33 (0.16–0.60)
Thrombotic events	6 (4)	11	0.15 (0.08–0.27)	2 (3)	2	0.07 (0.01–0.24)
Hematologic cancer or MDS	0	0	0	2 (3)	2	0.07 (0.01–0.24)
Lymphoma				1 (1)	1	0.03
MDS				1 (1)	1	0.03

死亡例（治療関連死なし）

ロミプロスチム群：1例（肺炎）

標準治療群：2例（肝不全、心停止）

- ・中和抗体の出現なし
- ・非血液学的検査異常なし

# 安全性

- ◆ 両群の90%以上の症例で、研究期間中少なくとも一つの 有害事象を認め  
た。  
→最も一般的な有害事象は頭痛、倦怠感
  - ◆ 重篤な有害事象
    - ロミプロスチム群 154例中35例 (23%)  
うち治療に関わる重篤なもの 154例中7例 (5%)
    - 標準治療群 75例中28例 (37%)  
うち治療に関わる重篤なもの 75例中6例 (8%)
- ## QOL

- ◆ ITP-PAQスコア  
ロミプロスチム群では以下の尺度で明らかな改善を認めた。

・ 症状 (P=0.01)	・ 悩み (P=0.008)
・ 活動性 (P=0.02)	・ 心理的 (P<0.049)
・ 恐怖 (P<0.001)	・ 社会的QOL (P=0.002)
・ QOL全体 (P=0.02)	

# Discussion

- ◆ロミプロスチムは脾摘までの期間を延長させる  
→リツキシマブやダプソン、抗D免疫グロブリンのような他の治療法も脾摘を遅らせたり、脾摘の必要性を減少させる可能性が推測されるが、これらの知見は前向き無作為化試験で確証されていない。

## ➤ロミプロスチムの問題点

- ・ロミプロスチムは継続して投与する必要がある。  
→毎週注射の必要性とそのコストは長期投与の上で制限となる。
- ・これまでの研究では5年間までの投与データに限られる。  
→長期投与における有効性や予期せぬ作用が明らかではない。

# 結語

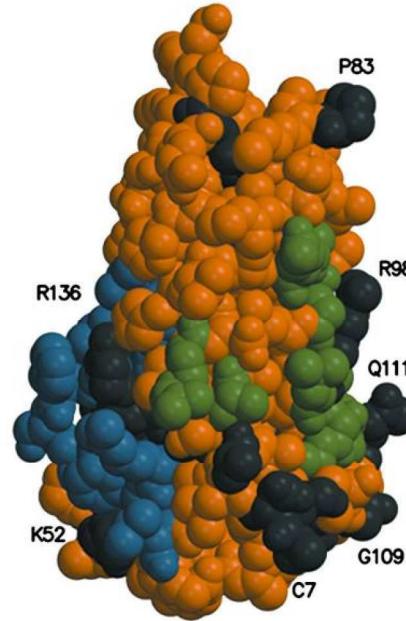
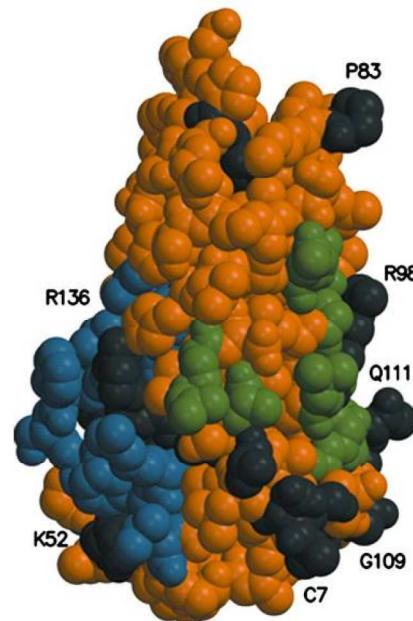
ロミプロスチム群では、標準治療群と比べて

- ・ 血小板反応性が高い
- ・ 治療失敗および脾摘の頻度が低い
- ・ 追加治療を必要とする割合が少ない
- ・ 重篤な有害事象が少ない
- ・ 出血と輸血頻度が少ない
- ・ QOLが良好である

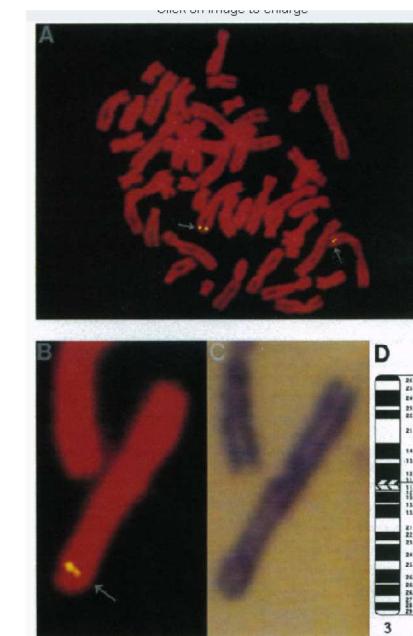
# Thrombopoietin (TPO)

1994年にクローニング

(独立した5グループから報告、de Sauvage FJ et al. Nature 1994;369:533)



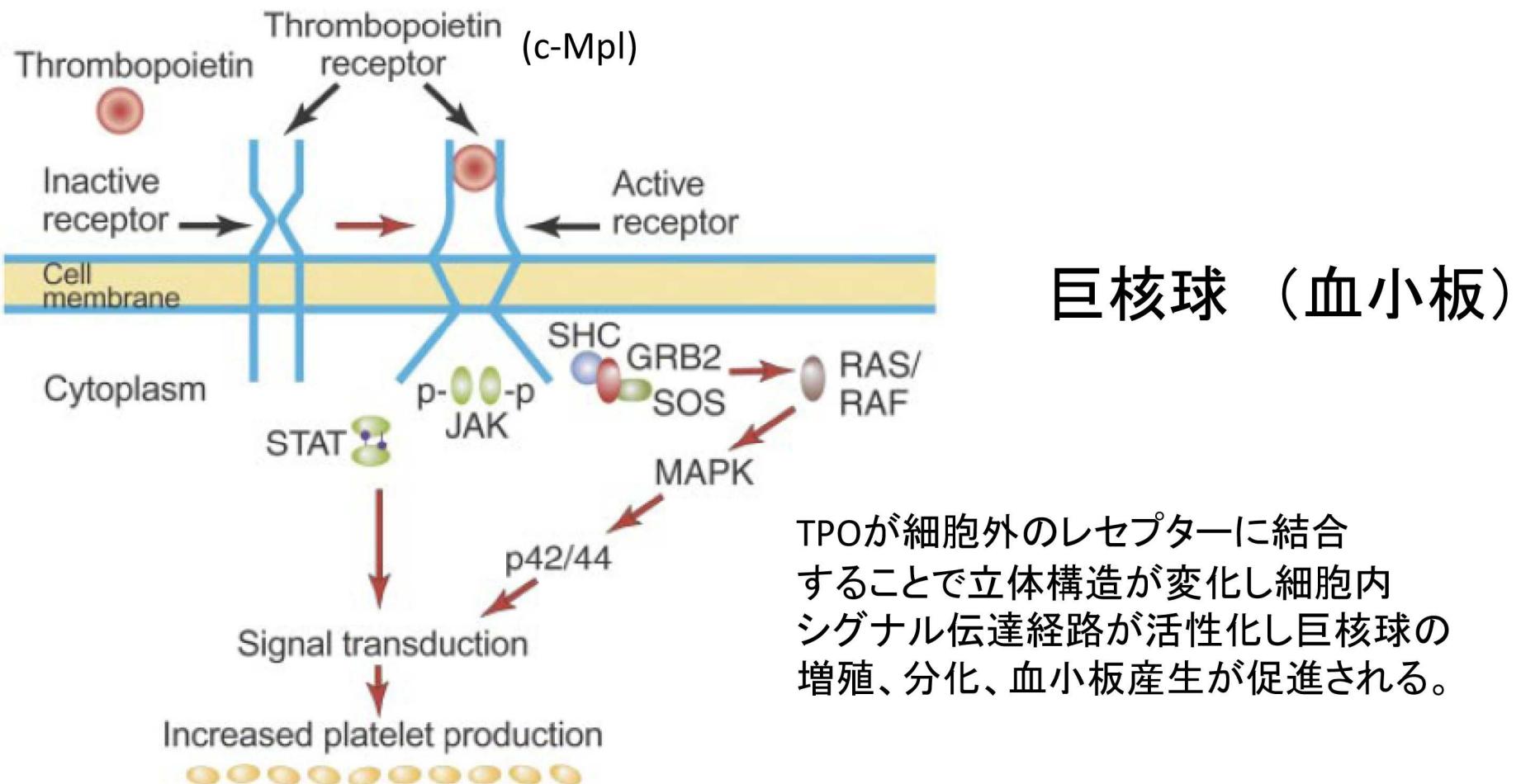
分子量: 約6万



遺伝子は3番の長腕に存在

Feese MD, et al PNAS 2004;101:1816-1821

# TPOのシグナル伝達



Kuter DJ. Blood 2007;109:4607-16